

# 竹取物語

この物語の作者は紀貫之とか、源順とかいわれていますが、はっきり分かっていません。また、いつ作られたものか明らかではありませんが、多分平安時代はじめの作品で、わが国の小説の中で最も古いものとされています。

吉原三中東側の竹やぶの中に竹取塚があります。

昔、ここにおじいさんとおばあさんが竹かごを作り暮らしていました。

ある日、おじいさんは竹やぶで光る竹の切株を見つけました。そこには十疋ほどの赤ちやんが入っていました。子どものない二人は



竹取塚

昭和五十五年九月五日号

大喜び、「きつと神様がお授けくださったに  
違いない」と、この子を大事に育てました。

この赤ちゃんを自分の子にしてから、おじ  
いさんが竹を切ると小判が出るようになり、  
おかげで、おじいさんは金持ちになりました。  
赤ちゃんは竹のようにすくすく背が伸び三カ  
月ほどで、輝くような美しい娘になりました。  
おじいさんは、この娘をかぐや姫と名づけま  
した。

かぐや姫のうわさは国中に広まりたくさん  
の人がお嫁にくださいと頼みにきました。そ  
の中で特別熱心な五人がいました。かぐや姫  
は「私の見たい物を早く取ってきた方と結婚  
します」と火ねずみの皮衣や竜の首の五色玉  
などの難問を一人一人に出しました。しかし  
五人とも失敗してしまいました。

それから幾月が過ぎ、姫は月を見て泣くよ  
うになりました。八月十五日の満月が近づい  
た夜、「私は月の世界のものです。長い間かわ  
いがつていただきましたが、こんどの満月の  
夜、月から迎えがくるので帰らなければなり  
ません、それが悲しくて」と泣く訳を話しま  
した。おじいさんは姫を渡すまいと決心しま  
した。天皇もそれを聞き三千人の武士をさし  
むけ十五夜の夜を待ちました。

やがて天使が空飛ぶ車で迎えに来ました。  
弓矢をかまえていたので魔法の力で体が  
動きません。かぐや姫はしつかり抱いていた  
おばあさんの腕の中から、するすると抜け出  
て車の中に入っていきました。姫は不死の薬  
と着物をかたみに天に昇っていきました。赫夜  
姫がいなければ、こんなものはいらないと駿河

の国にある日本一高い山の頂ぎに持つていき燃やしてしまいました。それから、この山の頂上からいつも煙がのぼっていました。そこで人々は、この山を不死の山（富士山）と呼ぶようになりました。

天に昇ったかぐや姫は、おじいさん、おばあさんのことが心配になって、月がおぼろにかすむ春になると時々、三保の松原や千本松原に舞いおりてきたということです。

## 物語由来の地名がたくさん

岡田 博さん（中比奈三）

私の竹やぶの塚でかぐや姫が発見されたといわれています。そのためこのあたりには、

この物語に由来する地名がたくさんあります。私の家の番地が籠畑、西の三中あたりが赫夜

姫番地、この比奈も姫奈村から、そして富士山も不死の山から名がついたみたいです。姫が別れを惜しんだ見返り坂も残っています。

